都留文科大学研究紀要　第99集（2024年 3 月）
The Tsuru University Review,　No.99（March, 2024）

イギリスにおけるシンセティック・フォニックスの指導と教材
― 小学校 2 校を訪問して ―

Synthetic Phonics Instruction and Materials in the U.K.:
Report from Two Primary Schools

上　原　明　子
KAMBARU Akiko

抄録

本稿では，イギリスの小学校 2 校の訪問を通して，「Little Wandle Letters and Sounds Revised」と「Read Write Inc.」という，イギリス政府認定のシンセティック・フォニックスの教材と，それを使用して行われる授業の様子を報告した。どちらの教材も，国が示す具体的なプログラムに基づいて作成されているので，扱う基本の音素・書記素の内容とその指導の順番はほぼ同じであったが，少し異なる部分もあった。そこに教材作成会社としての考えが表れている。教材を学校で採用・購入すれば，教え方のビデオの視聴や，指導案，評価用資料，ワークシートのダウンロードが可能となる。また，カード，ポスター，約300冊のデコーディング用絵本がパッケージとして提供されていた。さらに教員研修も提供されていた。学校は，それぞれの実情に合わせて教材を選択し採用していた。

授業は，毎日決まった時間をフォニックスに当てていた。今回 1 年生と 2 年生の授業を見学したが，学年のはじめということもあり，1 年生はレセプションで，2 年生は 1 年生で学んだことの復習が主に行われていた。また, 1 年生を 5 人ずつ取り出して, デコーディング用絵本を読む指導も行われていた。英語母語話者の子どもは，44の音素と同音異綴，トリッキーワード等を一つ一つ丁寧に，ブレンディングとセグメンティングを繰り返しながら時間をかけて学んでいる。日本におけるよりよいフォニックス指導について考えるためには，シンセティック・フォニックスについて深く理解する必要があり，本稿の報告がその一助になれば幸いである。

キーワード：フォニックス，イギリス，教材，小学校英語，音韻認識

1　はじめに

2020年度に，小学校 5，6 年生に外国語科が導入され，音と文字の関係について指導が行われている。そんな中，シンセティック・フォニックスに注目が集まっている。しかし，英語母語話者が，読み書き指導として，音と文字の対応関係を長い時間をかけて丁寧に指導しているのに対し，日本では単語の綴り全体を暗記する指導が多いという指摘がある（村上，2015；瀧沢，2020）。そして，それが読み書きの困難を引き起こしている現状があ

る（Takeda, 2005）。そこで本稿では，日本におけるフォニックス指導について考える一助となるように，イギリスにおけるフォニックスの授業の様子と，使用されている教材について，小学校 2 校で観察したことを報告する。

2　フォニックスとは

フォニックス（Phonics）とは，英語圏における読み方指導のひとつであり，音（音素）と文字（書記素）の対応関係を教える指導法である（ハイルマン・松香，1981）。仮名のように音と文字が一対一対応である日本語とは異なり，英語は，26文字のアルファベットで44の音を作り出している。つまり，一つの音に対していくつかの文字や綴りがあり，また，一つの文字や綴りでいくつかの音があるのである。英語は母語話者にとっても読み書きの習得が難しい言語であり，読み書き障がいの発現率は5.3％～ 11.8%（Katusic, Colligan, Barbaresi, Schaid, & Jacobsen, 2001）と高い。したがって，音（音素）と文字（書記素）の対応関係を一つ一つ丁寧に指導する必要があるのである。

フォニックスは, アナリティック・フォニックス（Analytic Phonics）とシンセティック・フォニックス（Synthetic Phonics）の 2 つに大きく分類される（山下, 2015）。アナリティック・フォニックスは，例えば cat, cup などの最初の文字を切り取って/k/と発音する方法で，英単語とその綴りを知っていて，その音を発音できることが前提にある（入山・加藤・渡辺・山下, 2019）。一方シンセティック・フォニックスは，単語の習得に関係なく音と文字の対応を指導し，一つの文字を指導したらすぐに既習の文字と組み合わせ（Synthesize）て，読み書きができるようにする方法である。文字の最小単位である音素から文字を習得し，速いテンポで学んでいくことが特徴である（湯澤・山下, 2015）。

3　学習指導要領におけるフォニックスの取り扱い

学習指導要領にフォニックスに関する記述が初めて登場したのは，2008年告示の『中学校学習指導要領』（文部科学省, 2008）である。「発音と綴りとを関連付けて指導すること」と記述されたが，具体的な指導内容や手順等は示されていない。村上（2015）は，指導は教員の裁量に任されており，伝統的にフラッシュカードなどを用いた単語の綴り全体を暗記する指導法が主に用いられていると述べている。また，文字指導を数回行ったのち，すぐに単語や文全体の読み書きが始まるため，日本の学習者は暗記以外の単語学習方法がない状態であると考えられると述べている。

2020年，小学校 5，6 年生に外国語科が導入された。『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』（文部科学省, 2018a）には，推測して読む手掛かりとなるように，英語の文字には名称以外に語の中で用いられる場合の文字が示す音があることを指導するとの記述がある。そして，その例として，「a や c という文字は，/ei/ や /siː/ という名称があると同時に，語の中では /æ/（例：bag，apple）や /ei/（例：station, brave），/s/（例：circle，city）や /k/（例：cap, music）という音をもっている」（p. 78）と書かれている。また，中学校で「発音と綴りとを関連付けて指導すること」に留意し，小学校では「音声と文字とを関連付ける指導」に留めることとされている（文部科学省, 2018a）。山本（2019）は，小学校では，1 文字 1 音の対応と，単語の初頭の文字を中心に扱うことと考えられると述べている。

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』（文部科学省, 2018b）には，引き続き「発音と綴りとを関連付けて指導すること」（p. 123）とあり，「例外はあるものの，英語の発音と綴りには，基本的な対応関係がある。こうした対応関係については，ある程度単語の綴りとその発音になじんだところで，単純なものから徐々に指導していくこととする」（p. 92）と書かれている。前回同様，具体的な指導内容や手順等は示されていない。また，「ある程度単語の綴りとその発音になじんだところで，単純なものから徐々に指導していく」と書かれていることから, すでに単語の綴りがわかり発音できる状態でフォニックス指導を行うことを想定していることがわかる（上原，2022a）。これでは，単語の綴りと発音にある程度なじむまでは，単語の綴りの丸暗記が強いられることになる。

4　音韻認識能力

フォニックス学習開始までに，様々な活動を通して音韻認識（Phonological Awareness）を育てておくことが大切であることが知られている。音韻認識の発達が，単語認識能力や読解力に大きく影響するのである（National Reading Panel, 2000）。音韻認識とは，話し言葉の音の構造を捉える能力（Hatcher, Hulme, & Ellis, 1994）である。音韻認識の育成は, 文・単語レベルからスタートする。まず初めに，文を単語に分けるところから始める。次に，脚韻（Rhyming）や，頭韻（Alliteration）に気付かせる活動を行う。その後，単語内の音の構造に気付かせていく。まず，音節（Syllable）に分ける活動，c-at，gr-eenのようにオンセット・ライム（Onset-Rime）に 分ける活動，最後に，b, a, thのように，最小の単位である音素（Phoneme）に分ける活動と，大きい単位から小さい単位へ単語を分けていく。オンセットとは，最初の母音の前に来る子音のことで，ライムとは，最初の母音とそれに続くすべての音のことである。音素まで分けることができるようになったら，次は音素の操作を行う。その代表的なものは，b, e, dをくっつけてbedという単語を作るブレンディング（結合, Blending）と，catをc, a, tと分けるセグメンティング（分解，Segmenting）である。これらを，文字を使用せずに行う（上原，2022b）。

5　イギリスのナショナルカリキュラムにおけるフォニックス

イギリスの小学校は, キーステージ 1（Key Stage 1, 1 ～ 2 年生）とキーステージ 2（Key Stage 2，3 ～ 6 年生）から構成されている。また，3 歳から 5 歳までをファウンデーションステージ（Foundation Stage）と位置付けており，そのうち小学 1 年生の 1 年前の段階がレセプション（Reception）である。

イギリスでは，1980年代後半から，読みの到達基準に関して懸念する声が上がり始め，1989 年に初めてナショナルカリキュラム（National Curriculum）が制定された。これにより，それ以前，学校長の裁量に任されていた学習の保障について，全国的な基準として学年ごとの学習目標を示したのである（湯澤・山下, 2015）。

フォニックスがナショナルカリキュラムの中で明確に打ち出されたのは，1997年，政権が保守党から労働党へと移行したときである。労働党は，フォニックスの指導強化を目的に「Progression in Phonics」という教材を公示した。しかし，当時のフォニックスはアナリティック・フォニックスであった。その後政府は，フォニックスの指導方法が不十分であることを指摘し，2006年にRose Reportを提示し，フォニックスをシンセティック・

フォニックスで指導するように推奨した（湯澤・山下, 2015）。そして2007年に，ファウンデーションステージにおける具体的なプログラムとして「Letters and Sounds: Principles and Practice of High Quality Phonics」（以下，「Letters and Sounds」）を 公表した（湯澤・山下, 2015）。なお，現行のナショナルカリキュラムは2014年公示のものである。

6 「Letters and Sounds」

「Letters and Sounds」（Department for Education and Skills，2007）は，フェーズ（Phase）1 から 6 で構成されており，ファウンデーションステージとキーステージ 1 で終了する。フェーズ 1 は，フォニックスを始める前に音韻認識を促すもので，文字を使わずに行う。活動は「環境に含まれる音」,「楽器の音」,「ボディーパーカッション」,「リズムと脚韻」,「頭韻」,「声」,「口頭でのブレンディングとセグメンティング」の 7 段階で設定されている。フェーズ 2 では，6 週間を目安に，19の音を文字とともに学び，文字でもブレンディングやセグメンティングを行えるようになることを目指す。毎週 1 セットずつ 4 ～ 5 つの文字が導入される。1 週目は s, a, t, p，2 週目は i, n, m, d，3 週目は g, o, c, k，4 週目はck, e, u, r, 5 週目は h, b, f/ff, l/ll, ss，6 週目は復習である。これらの導入順序は, 頻出度の高い順になっている。また，VC（母音＋子音）や CVC（子音＋母音＋子音）の単語のブレンディングやセグメンティング，及び the, to, go, no, I といったトリッキーワード（不規則語，Tricky Words）が読めるようになることを目指す。英語の綴りと発音の間には75％以上の規則性があるが（Crystal, 1990），フォニックスのルールに沿っていない単語は日常で使用する身近な単語に多く，それらについては見たままに綴りを覚えるという方法をとる。それがトリッキーワードである。

フェーズ 3 では，12週間を目安に，さらに25の音を文字とともに学び，基本の44の音と文字の学習が完成する。ここで学ぶ文字は，j, v, w, x, y, z/zz, qu, ch, sh, th, ng, ai, ee, igh, oa, oo, ar, or, ur, ow, oi, ear, air, ure, er である。また，he, she, we, me, be, was, my, you, her, they, all, are といったトリッキーワードを学習する。

フェーズ 4 では，4 ～ 6 週間を目安に，これまでに学習した知識の定着を図る。CVCC, CCVCの単語のブレンディングやセグメンテーション，連続子音を含む単語の読みや綴り，頻出語，2 音節語や文を読む活動を行う。また，said, so, have, like, some, come, were, there, little, one, do, when, out, what といったトリッキーワードを学習する。

フェーズ 5 では，treasure という単語に含まれる /zh/ の音素を新しく学ぶ。また，同じ綴りで異なる読み方をする同綴異音や同じ音で異なる綴りの同音異綴を学ぶ。ここでは，a-e, e-e, i-e, o-e, u-e といったマジック e（Magic e）も出てくる。マジック e とは，母音字+子音字 1 つ + e の場合，最後の e はその前の母音字をアルファベットの名称読みに替え，e 自体は発音しないというルールのことで，cake, cone などの単語がそれに当たる。また，頻出単語として，oh, their, people, Mr, Mrs, looked, called, asked, water, where, who, again, thought, through, work, mouse, many, laughed, because, different, any, eyes, friends, once, please 等の単語の読みを学習する。さらに，2 音節や 3 音節の単語や文の読みを学習する。

フェーズ 6 では, 過去形, 接尾辞, 長い綴りの単語, 変則的な綴りの規則を学ぶとともに，これまで学習した知識の定着や読みや綴りのスキルの向上を図る。フェーズ 5 は 1 年生，フェーズ 6 は 2 年生で学習するということが書かれているので（Department for Education

and Skills，2007)，フェーズ 1 から 4 まではレセプションで学習することが想定されていることがわかる。

7　イギリスにおけるシンセティック・フォニックスの教材

イギリスの政府は，高品質のフォニックス指導と子どもたちの読み書きレベルの向上のため，シンセティック・フォニックスの教材（SSP, Systematic Synthetic Phonics Teaching Programmes）の検証をおこなっている。最近では，2021年 4 月に，改訂版の基準を発表し，新しい検証プロセスのもと，以前からある教材や新規参入の教材の検証を行った。その結果，以下の45の教材が合格した（Department for Education, n.d.)。

- A Flying Start with Letters and Sounds
- ACET Phonics
- All Aboard Phonics
- ALS Phonics: Letters and Sounds
- Anima Phonics: Letters and Sounds Updated
- Bug Club Phonics
- Dramatic Progress in Literacy Phonics (DPiL)
- Essential Letters and Sounds
- Extend Letters and Sounds
- FFT Success for All Phonics
- First Class Phonics
- Fishing for Phonics
- Floppy's Phonics
- GES Simply Letters & Sounds
- Jolly Phonics
- Junior Learning Letters & Sounds
- LearnPhonics!
- Lesley Clarke's Letters and Sounds
- Letterland
- Little Wandle Letters and Sounds Revised
- McKie Mastery Power Phonics
- Monster Phonics
- No Nonsense Phonics
- Pearl Phonics
- Phonics International
- Phonics Shed
- Phonics Steps
- Pip and Pap
- Read Write Inc.
- Reading Planet Rocket Phonics

- Ready Steady Phonics
- RoboPhonics
- Schofield & Sims My Letters & Sounds
- Smart Kids Letters and Sounds - The Code
- Snappy Sounds
- Song of Sounds
- Sound Discovery
- Sound!Start Phonics for Letters and Sounds
- Sounds-Write
- Supersonic Phonic Friends
- The Partnership Phonics Programme (based on Letters and Sounds)
- Time for Phonics
- Twinkl Phonics
- Unlocking Letters and Sounds
- Wand Phonics with Phonics International and/or No Nonsense Phonics

政府は，これら検証を受けた教材は，レセプションとキーステージ 1 にふさわしい内容であり，ナショナルカリキュラムが目指す，キーステージ 1 の終了時に，デコーディング（Decoding）による単語の読みができるようになることを可能にするものであるとしている。デコーディングとは解読のことで，ここではフォニックスのルールを通して単語を読むことを意味している。そして，政府は各学校に，それぞれの教材についてよく検討し, 在籍児童にとってよりよいものを選択し採用するようにと述べている。その選択の際, Department for Educationが提供している各地域のEnglish Hubを利用し，サポートを受けることを推奨している。また，政府は，学校をサポートするために，教材の購入やその出版社が行う教員研修への参加のための2022-2023年の予算を追加で準備した。その他，2022年10月に，A New National Professional Qualification for Leading Literacy (NPQLL) を発足させ, リテラシーのエキスパートを育てるための教員研修を行っている。これらのことから, 政府はリテラシー教育に力を入れていることがわかる。

8 「Jolly Phonics」

イギリス政府が検証した上記の教材の中の 1 つに，イギリスのシンセティック・フォニックスを牽引してきた「Jolly Phonics」がある。「Jolly Phonics」は，近年日本でも知られるようになり，日本語版（ジョリーラーニング社，2017）も出版された。日本国内でも，「Jolly Phonics」の紹介や実践報告は数多くある（山下, 2015；湯澤・山下, 2015；木澤, 2018；入山・加藤・渡辺・山下, 2019；加藤・入山・山下・渡邊, 2020；佐々川・納富, 2021；高橋，2021；安達, 2022；百武・納富，2022；入山, 2023）。

2005年調査では，「Jolly Phonics」はイギリスの学校の68％で使用され，世界120か国以上で導入されている（ジョリーラーニング社, 2017）。現在は，150か国以上で使用されている（Jolly Learning, n.d.）。「Jolly Phonics」では，第 1 段階で42の英語の音を文字とともに 1 つずつ学び，ブレンディングとセグメンティングを繰り返す。第 1 段階で学ぶ42の

音は頻出順に，7 つのグループに分けて指導される。第 1 グループは s, a, t, i, p, n, 第 2 グループは c/k, e, h, r, m, d, 第 3 グループは g, o, u, l, f, b, 第 4 グループは ai, j, oa, ie, ee, or, 第 5 グループは z, w, ng, v, oo, oo, 第 6 グループは y, x, ch, sh, th, th, 第 7 グループは qu, ou, oi, ue, er, ar である（山下, 2015）。第 2 段階では マジック e を含む同音異綴やトリッキーワードを学ぶ（ジョリーラーニング社, 2017）。

「Letters and Sounds」と比較すると，「Letters and Sounds」における基本の書記素には含まれていない ie, ou が「Jolly Phonics」の第 1 段階には含まれている。逆に，「Letters and Sounds」における基本の書記素に含まれている ow, ur, igh, ear, air, ure が「Jolly Phonics」には含まれていない。これらの違いは，何を基本の書記素とするか（それ以外は同音異綴やトリッキーワードで学ばせる）という教材作成者の考え方の違いであろう。また，「Jolly Phonics」は，視覚（Visual），聴覚（Auditory），動作（Kinaesthetic），触覚（Tactile）等を使った多感覚法（Multisensory Approach）を採用していることが特徴である。山下（2015）によれば，英語の音と文字を知らない子どもたちでも習得でき，多感覚法を用いている「Jolly Phonics」は，英語を母語としない子どもや特別の支援を必要とする子どもにもやさしいプログラムである。

９　イギリスの小学校訪問から

（1）Coventry 市 E 小学校

Coventry は，ロンドンから北に特急電車で 1 時間ほどのところに位置する。Coventry 駅から徒歩で15分程度の場所に位置する E 小学校を訪問した。訪問期間は，2022年 9 月12日から16日の 5 日間で，新学年が始まって間もない時期であった。算数や理科，英語の授業，アセンブリーなども参観したが，本稿ではフォニックスの授業に絞って報告する。

この小学校で採用されているシンセティック・フォニックスの教材は，「Little Wandle Letters and Sounds Revised（以下Little Wandle）」である。ホームページ（Little Wandle Letters and Sounds Revised, n.d.）によると，5000以上の学校で採用されており，フォニックスを素早く学べるプログラムであるとのことである。教え方のビデオの視聴や，週単位で書かれた毎時間の指導案（Weekly Grid），評価用資料，ワークシートのダウンロードが可能となっている。また，カード，教室掲示用ポスター等の提供がある。さらに教員研修も提供している。また，約300冊のデコーディング用絵本（指導案付き，物語及びノンフィクション）が準備されている。表 1 と表 2 は，レセプションと 1 年生で学習する内容である。

表１　レセプションで学習する内容

時期	レベル	書記素（Graphemes）	トリッキーワード
Autumn 1	フェーズ 2	s, a, t, p, i, n, m, d, g, o, c, k, ck, e, u, r, h, b, f, l	is, I, the
Autumn 2	フェーズ 2	ff, ll, ss, j, v, w, x, y, z, zz, qu, ch, sh, th, ng, nk 単語の最後に付く s（hats, his, bags）	put, pull, full, as, and, has, his, her, go, no, to, into, she, push, he, of, we, me, be
Spring 1	フェーズ 3	ai, ee, igh, oa, oo, **oo**, ar, or, ur,	was, you, they, my, by, all,

		ow, oi, ear, air, er	are, sure, pure
Spring 2	フェーズ 3	復習 ・2 つの文字が重なった綴りを持つ単語 ・長い綴りの単語 ・2 以上のダイグラフを含む単語 ・ing で終わる単語 ・複合語 ・単語の真ん中に s がくる単語 ・単語の最後に s や es が付く単語	これまで出てきた単語の復習
Summer 1	フェーズ 4	短母音と連続子音を含む単語 CVCC, CCVC, CCVCC, CCCVC, CCCVCC ing, ed, est で終わる単語	said, so, have, like, some, come, love, do, were, here, little, says, there, when, what, one, out, today
Summer 2	フェーズ 4	長母音と連続子音を含む単語 CVCC, CCVC, CCCVC, CCV, CCVCC	これまで出てきた単語の復習

（ホームページをもとに筆者作成）

表２　１年生で学習する内容

時期	レベル	書記素（Graphemes）	トリッキーワード
Autumn 1	フェーズ 3, 4（review） フェーズ 5	/ai/ ay (play), /ow/ ou (cloud), /oi/ oy (toy), /ea/ ea (each)	これまで出てきた単語の復習
Autumn 2	フェーズ 5	/ur/ ir (bird), /igh/ ie (pie), /oo/ /yoo/ ue (blue rescue), /yoo/ u (unicorn), /oa/ o (go), /igh/ i (tiger), /ai/ a (paper), /ee/ e (he), /ai/ a-e (shake), /igh/ i-e (time), /oa/ o-e (home), /oo/ /yoo/ u-e (rude cute), /ee/ e-e (these), /oo/ /yoo/ ew (chew new), /ee/ ie (shield), /or/ aw (claw)	their, people, oh, your, Mr, Mrs, Ms, ask, could, would, should, our, house, mouse, water, want
Spring 1	フェーズ 5	/ee/ y (funny), /e/ ea (head), /w/ wh (wheel), /oa/ oe ou (toe shoulder), /igh/ y (fly), /oa/ ow (snow), /j/ g (giant), /f/ ph (phone), /l/ le al (apple metal), /s/ c (ice), /v/ ve (give), /u/ o-e o	any, many, again, who, whole, where, two, school, call, different, thought, through, friend, work

		ou (some mother young), /z/ se (cheese), /s/ se ce (mouse fence), /ee/ ey (donkey), /oo/ ui ou (fruit soup)	
Spring 2	フェーズ 5	/ur/ or (word), /oo/ u oul (awful could), /air/ are (share), /or/ au aur oor al (author dinosaur floor walk), /ch/ tch ture (match adventure), /ar/ al a (half father), /or/ a (water), schwa in longer words (different), /o/ a (want), /air/ ear ere (bear there), /ur/ ear (learn), /r/ wr (wrist), /s/ st sc (whistle science), /c/ ch (school)l, /sh/ ch (chef), /z/ ze (freeze), schwa at the end of words (actor)	once, laugh, because, eye
Summer 1	復習及び評価		
Summer 2	フェーズ 5	/ai/ eigh aigh ey ea (eight straight grey break), /n/ kn gn (knee gnaw), /m/ mb (thumb), /ear/ ere eer (here deer), /zh/ su si (treasure vision), /j/ dge (bridge), /i/ y (crystal), /j/ ge (large), /sh/ ti ssi si ci (potion mission mansion delicious), /or/ augh our oar ore (daughter pour oar more)	busy, beautiful, pretty, hour, move, improve, parents, shoe

（ホームページをもとに筆者作成）

取り扱う音素・書記素とその順番は「Sounds and Letters」とほぼ同じである。特徴的なのは，レセプションのAutumn 2（フェーズ 2）で nk が取り扱われている点と，「Letters and Sounds」ではフェーズ 3 で取り扱われている ure が取り扱われていないことである。また，トリッキーワードに関して，「Letters and Sounds」ではフェーズ 2 で 5 つの単語が例として挙がっているが，「Little Wandle」では多くの単語を取り扱っている。また，取り扱っているトリッキーワードの種類が「Letters and Sounds」とは少し異なっている。ホームページに 2 年生の学習内容についての記載はなかったが，1 年生でフェーズ 5 まで学習するので，2 年生は「Letters and Sounds」のフェーズ 6 に当たる内容を学習すると考えられる。以下，見学したフォニックスの授業の様子を日を追って報告する。

①　2023年 9 月12日（月）

1 年生のクラスを訪問した。担任は，教職18年の女性で，30名の児童が在籍していた。朝 8 時45分に児童は登校してきた。そして，各自，自由遊びを始めた。教室には，たくさんの大型おもちゃがあり, 読み書き学習につながるカード遊び等（写真 1 , 写真 2 ）もあった。その他，例えばq is for queue. W is for wand. 等の文が書かれた塗り絵をしたり，絵本を読んだりする児童の姿があった（写真 3 ）。写真 4 は，読みのレベルごとに整理された絵本の棚である。教室の壁には, フォニックスに関する掲示があった。写真 5 は, フォニッ

写真１　アルファベットのパズル

写真２　アルファベット磁石で単語を作る遊び

写真３　塗り絵や読書をする児童

写真4　読みのレベルごとに整理された絵本の棚

クスの教材「Little Wandle」で学習する書記素の一覧である。同じ音ごとにまとめられている。写真 6 及び写真 7 は，前の週に学習した内容の掲示である。oa, oo, ar, oi, ow, ur, or, igh, ee, ai, er, ar, を復習したことがわかる。表 2 によると，1 年生はフェーズ 3, 4 の復習からスタートするので，この時期は，レセプションで学習した内容を復習しているのである。

写真 5　教材「Little Wandle」で学習する書記素一覧

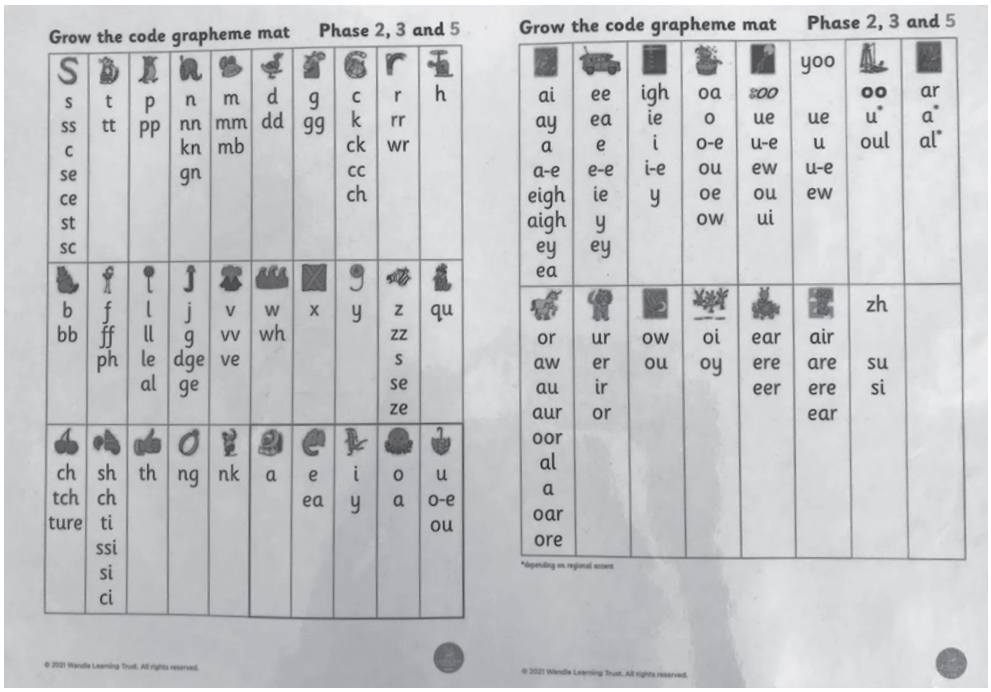


写真 6　前の週に学習した内容①

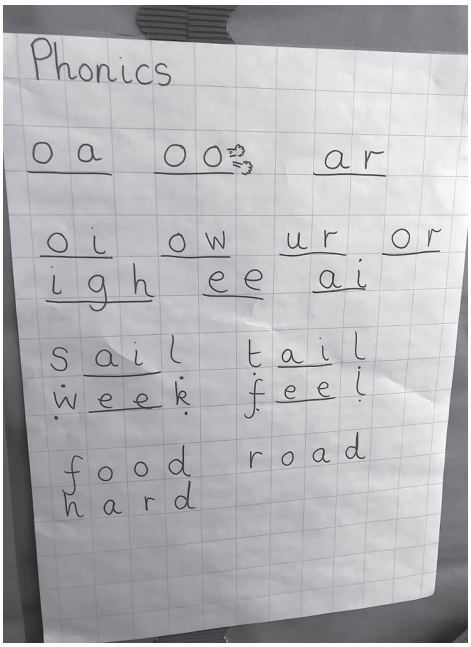
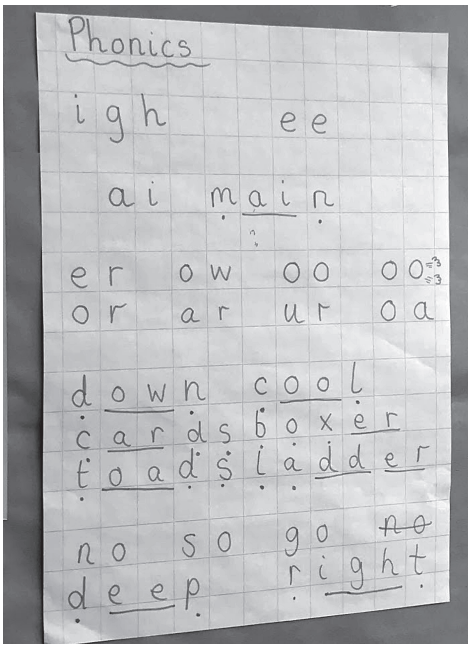


写真 7　前の週に学習した内容②



この日は，午後にフォニックスの授業が始まった。まず，指導者（担任）は，owと書かれたカードを示して数回発音し，児童全員にリピートさせ，その後一人一人発音させていった。そして，指導者は教室前面にある大きな紙に ow と書いた。その後，er, ur, oi, air, ear についても同様の流れで進めていった。途中ダイグラフ（ 2 文字で 1 音を表すもの，Digraph）やトライグラフ（ 3 文字で 1 音を表すもの，Trigraph）という言葉を確認したり，earは 1 音であることを確認したりしていた。続いて tails と書かれた単語カード（aiに下線が引かれている）を見せ，まだ単語として発音せず，セグメンティングをするように指示をした。すると児童の一人が t-a-i- と ai を一つずつ分けて読んだので，指導者は下線が引かれている部分の aiはダイグラフで 1 音であることを説明した。そして，t-ai-l-s と数回発音させ，最後にそれらをつなげ，単語として発音させた。surfs（urに下線が引かれている）や sighing（ighとngに下線が引かれている）についても同様の流れで進めていった。次はトリッキーワードの練習である。指導者は，the, into, out, go, no, my, to, by の単語カードを次々と見せ，はじめは全員で，その後，一人ずつ発音させた。児童はよく読めていた。最後は書く活動である。beard（earに下線が引かれている）と書かれたカードを見せて b-ear-d と分けて発音させた後，beard とつなげて発音させた。そして，教室の前面にある大きな紙に b の文字の書き方を説明しながら書き，その後 ear と d も書いた。同様に tear についても書き方を説明し，ノートにこの 2 つの単語を書くように指示をした。次は文を書く活動である。指導者は，ゆっくり書き方を説明しながら My fishes are bigger than the cat.と書いた。そして，areはトリッキーワードであること，sh はダイグラフであること，最後はピリオドを打つことなどを説明した。そして，この文をノートに書くように指示をした。最後に，hair, year, what についても書かせた。その際，what はトリッキーワードなので発音に注意することと，何度も説明していた。

写真 8 児童のノート

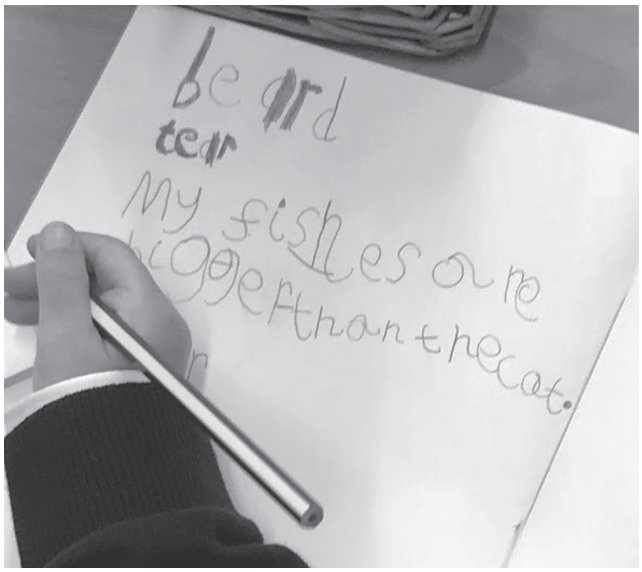


写真 8 は，この時間に児童が書いたノートである。イギリスで用いられているのは Precursive（半筆記体）である。筆順を考慮したフォントである。1 年生の初期ということもあり，まだ上手に文字が書けない様子であった。1 年生は線のないノートに書き，徐々に 1 線の上，2 線の中と進んでいき，2 年生から 4 線に書くとのことであった。

教材「Little Wandle」は，指導者用に「Weekly Grid」（図１）を用意している。毎日の指導内容が週ごとに書かれている。9 月12日は，秋学期が始まって 2 週目の月曜日な

ので，Autumn 1 week 2 の 1 つ目の欄に書かれた内容に該当する。実際に授業で扱った書記素や単語はこの表とは少し異なるが，My fishes are bigger than the cat.という文や，hair, year, whatといった単語を書かせたところは，「Weekly Grid」通りである。「Weekly Grid」を頼りにしながらも，児童の実態に合わせて多少の変更を行いながら指導していることがわかる。

図 1 「Weekly Grid」

Weekly grid Year 1 phase 3 **Autumn 1 week 2**

Lesson focus	Revisit and review						Practise and apply		Reading practice sessions with decodable reading books: three times a week
	GPCs	Words	Tricky words	Oral blending	Review words	Example definitions and sentences	Read/write the sentence	Spelling	
Review air er /z/ s, –s –es	ai ee igh oa ow ear air er sh zz ss	fears howl year fishes fizzes misses	what when	h-air-z b-i-gg-er v-i-z-i-t	hair fairs bigger visit toads letter	**fairs** A place with lots of rides and food stalls where you can go to have fun. **visit** Going to see someone, a place or something – We are going to visit my nan at the weekend. **letter** Either a symbol from the alphabet that we use to spell words, or a message written on paper and sent to someone.	My fishes are bigger than the cat.	hair year + what	
Two or more digraphs	ch sh qu ar ai or ear ng ck	**Match the words to the pictures:** tear cob/web chick/en rabb/it finger letter	what when he she we	sh-ow-er m-ar-ch ch-ai-n	cheep shower arch march chain thorn	**arch** Something curved – We walked under the arch of the bridge. **chain** Things that are connected together, like a chain on a bike. **thorn** A small, pointy bit on a plant stem, like a rose thorn.	I can feel the cobweb with my finger.	chain march + she	
Two or more digraphs	qu sh th ee ar or oi igh air	night feeling goats coil fairs boils	what when he she we be me	qu-ee-n sh-ar-p sh-or-t	sheet queen teeth sharp short sheep	**sharp** Something that has an edge or point that can cut – Be careful with those sharp scissors! **short** Not tall – My little brother is short. It can also mean not a long time – We went for a short walk.	The sheep has sharp teeth.	queen sharp + me	
Two or more digraphs	sh ng er oo th or ch ar air	**Sort the ar/or words:** gar/den mor/ning car/pet mar/ket corn/et farm/yard	what when he she we be me have love	n/a	**Match the words to the pictures:** rubb/ish singer chair tooth torch shark	n/a	My garden feels cool in the morning	chair shark + love	
Review	air ar ow er ee ch sh ai oa	**Match the words to the pictures:** mag/net show/er parr/ot buck/et ear/ring pop/corn	what when he she we be me have love	n/a	**Sort the oo/er words:** car/toon bed/room ba/lloon thicker farmer better	**Quick review:** fears year fishes fizzes misses mixes tails surfs feeling	**Write:** I have a bucket of popcorn.	better bucket	

Notes for these lessons
- These are all review lessons that extend children's reading skills – please use the 'Review lesson template' and 'Lesson prompt cards' for guidance. Use the word cards showing the sound button side, and ask children to identify the digraphs in the words before they read.
- Use the chunking method, if needed, to support children reading these longer words. Aim for the children to be able to read the words without chunking them up. Over time, these words should enter the children's orthographic store and become fluent.
- Lessons 4 and 5: **Sort the words:** Display the catchphrase side of the grapheme cards when sorting the /ar/ /or/ and /oo/ /er/ words.

なお，教室の外のホールでは，特別支援を必要とする児童の取り出し指導が行われていた（写真 9 ）。

写真 9　特別支援を必要とする児童の取り出し指導

写真10　デコーディング用絵本を使った指導

②　9 月13日（火）

午前中に，教室の外のホールで，1 年生を 5 人ずつ取り出して，デコーディング用絵本を使って読みの指導を行っている様子を観察した（写真10）。指導しているのは，支援員である。デコーディング用絵本は『pip and pop』を使用していた。この本は，フェーズ 2 のセット 3 というレベルのもので，c, k, ck, o を中心に学ぶためのものである。フェーズ 2 はレセプションで扱うレベルなので，1 年生にとっては復習に当たる。ストーリーを読む前に，c, k, ck, o が書かれたカードを見せながら一人一人発音させた。次に，sack, can, pops, Kim という単語が書かれたカードを見せ，発音させた。さらに，the, is というトリッキーワードが書かれたカードを見せ同様に発音させた。それから，新出語彙として，kit と dip と書かれたそれぞれのカードを見せ，k-i-t, d-i-p と音素に分けて発音させ，絵を見せることでその単語の意味をとらえさせた。その後，本のタイトルを読ませ，一人一人に本を配った。そして，各ページに書かれている一文を一人一人読ませていった。例えば，Kim picks the kit. Pip ticks the sack. といった文である。ckを含む単語がたくさん使われている。子どもたちは，まだ文をすらすら読める様子ではなかったので，一つ一つの単語を指で押さえながら，さらに音素に分けながら読ませていた。すべてのページの文を 5 人全員が一人一人読めるようにするため，この活動はトータル45分程度かかった。

それが終わると，同じ支援員が別の 5 人の児童を教室から取り出して，『Jig and Jog』というデコーディング用絵本を使用して指導を始めた，この本は，フェーズ 2 のセット 5 というレベルのもので，j, w, qu, ch, sh, th, ng, nk を中心に学ぶためのものである。指導の流れは前と同じである。この指導の流れについても「Little Wandle」から資料（図 2 ）が提供されており，この支援員もその流れに沿って指導を行っていた。この資料によると，一つのデコーディング用絵本を使用して 3 回指導を行うこと，その 3 回とは，デコーディング，文を流ちょうに読むこと，内容理解である。

他のコーナーでは別の支援員が別のデコーディング用絵本『A Dip』を使って指導していた。この本は，フェーズ 2 のセット 2 というレベルのもので，s, t, p, n, m, d, a, i を学ぶためのものである。このように，子どもたちのデコーディングのレベルによってグループ分けをして指導を行っていた。そして一人一人の読みの様子を記録していた。

図２　出版社から提供されているデコーディング用絵本の指導の流れ

Before reading

Practising phonics: Phase 2, Set 3

- Read the book three times over three reading practice sessions.
- Focus on a different aspect of reading each time: decoding, prosody and comprehension.
- Download the word cards to accompany this book at: collins.co.uk/BigCatLittleWandleL&Srevised

Revisit and review: Pre-read

- Before reading the book, ask the children to read the GPCs, words and tricky words. Encourage them to read the words fluently.

Reading at home

This book has been chosen for your child to read at home. They should be able to read it without your help. Listen to your child read. Celebrate their success and talk about the book together. If they can't read a word, read it to them. You can find out more about how to support your child to learn to read at www.littlewandlelettersandsounds.org.uk

Read the GPCs

c　k　ck　o

Read the words

sack　can　pops　Kim

Read the tricky words

the　is

Vocabulary

Ask the children to read these words. Check understanding.

kit　dip

Glossary

kit things that you need to make or do something

dip to put something in and take it out again

Practise and apply: Read the book

- Now ask the children to read the book.
- Tap-in and listen to each child read.

この日の午後は，2 年生のクラスでフォニックス指導を見学した．指導者は，担任で教職20年の女性である。まず, or, ai, ar, ck, ng, ch, sh, qu, ear と書かれたそれぞれカードを次々に見せて児童全体に発音させた。子どもたちは素早く正確に読めていた。次は，when, what とそれぞれ書かれたカードを見せながら，これらはトリッキーワードであることを確認し，wh-a-t, what と発音し，児童にも発音させた。he, she, we についても発音させた。

次に，shower と書かれたカードを見せ，sh, ow, er と分けて読ませた後，3 つのダイグ

ラフであること確認し，showerと読ませた。marchについても，m, ar, chと分けて読ませた後marchと読ませた。その後，sheet, teeth, queenとそれぞれ書かれたカードを見せながら全員で発音させた後，一人ずつ発音させた。2 年生は，どの単語もすらすらと読めており，1 年生で学んだことがよく身に付いている様子だった。次は書く活動である。指導者は，発音しながら大きな紙にI can feel the cobweb with my finger.と書いた。トリッキーワードを四角で囲み，ダイグラフに下線を引いた。最後に指導者がchainと発音し，How many sounds? と聞くと児童はThreeと答えた。さらに，どのように綴るのかを児童に聞くと児童は，ch, ai, nと音素に合わせて答えたので，指導者は 3 音をそれぞれ発音しながらchainと書き，児童にも書くように指示をした。同様の流れでmarchも書くように指示をした。

③　9月14日（水）

この日の午後は，再び 1 年生のフォニックス指導を見学した。この学校では，フォニックスの学習を午後に位置付けていた。この日は，ダイクラフやトライグラフの学習ということで，qu, sh, th, ee, ar, or, oi, igh, airが取り上げられていた。指導の流れは，9 月12日（月）に見学した時と同じであり，図 1「Weekly Grid」の 3 日目（ 3 段目）に示されている通りの流れであった。

④　9月15日（木）

この日は再び 2 年生のクラスを見学した。朝児童が登校すると，担任はすぐに本日のランチの種類を一人一人聞いていた。学校のランチではなく，自分のランチを持ってきている児童もいた。聞かれる順番を待っている児童には，say, rain, play, sailという単語を 4 線のノートに書くように指示をした。

午後はフォニックスの時間である。lady, paid, apron, chase, tasteを読む練習をさせた。long a（長母音のa）の学習である。そして，a-eについてはsplit digraph a，e-eについてはsplit digraph eという用語を使って説明していた。マジックeのことである。その後，mail, sway, brave, sail, prey, tail, grape, baby, skate, clay, paint, bake, eightの単語を，a-e, ay, ai, eigh, a, eyのどれに当てはまるか，仲間分けをする活動を行った。それらの単語はすべて /ei/ という音が含まれている。音は同じでも綴りが異なる同音異綴の学習である。なお，この 2 年生の担任によると，フォニックスを行うのは 2 年生の前半までで，その後はスペリングを中心に行うとのことである。

⑤　9月16日（金）

この日は，レセプションのクラスを見学した。子どもは26名在籍していた。レセプションは，フォニックス指導の中心であるので，ぜひその指導を見学したかったが，他の学年より 1 週遅れで学校が始まり，まだ 5 日しか登校していないので，学校生活に慣れることを第一に，まだ屋内遊びや外遊びを中心に行っている段階であり，フォニックス指導は開始されていなかった。この日まで12：50に下校し，次週から午後の授業がスタートするとのことであった。

（2）Milton Keynes市A小学校

Milton Keynesは，ロンドンから北に特急電車で30分ほどのところに位置する。Milton Keynes駅から車で 5 分程度の場所に位置するA小学校を訪問した。訪問期間は，2022年 9 月21日（水）と22日（木）である。この学校はキーステージ 1 のみ，つまり 2 年生までの学校である。9 月21日は特別支援のクラスを見学し，9 月22日は，フォニックス，算数，英語の授業を見学した。本稿では，フォニックスの授業について報告する。

この小学校で採用されているシンセティック・フォニックスの教材は，「Read Write Inc.」である。数年前まで「Jolly Phonics」を採用していたが, 校長が代わったときに「Read Write Inc.」に変更したとのことである。「Jolly Phonics」は, 前述した通り，多感覚を使って学習する，非英語母語話者や特別支援の必要な子どもたちにもやさしい教材であるが, 母語話者の子どもたちには，もっとスピーディーにフォニックスを学べる教材がよいとの判断で変更になったとのことである。

創始者であるRuth Miskin氏によるホームページ（Ruth Miskin Training, n.d.）によると，「Read Write Inc.」は，2002年に創設され，Oxford University Pressによって出版されている。レセプションから 4 年生までを対象とし300冊を超えるデコーディング用絵本（指導案付き，物語及びノンフィクション）が準備されている。また，前述の「Little Wandle」同様, 教え方のビデオの視聴や, 指導案, 評価用資料, ワークシートのダウンロードが可能となっている。カード，教室掲示用ポスターや，教員研修も提供している。

「Read Write Inc.」のホームページ（Read Write Inc., n.d.）によると，Learning Set 1, Learning to blend with Set 1, Learning Set 2, Learning Set 3 と学習は進んでいく。それぞれで扱う書記素は以下の通りである。

Learning Set 1

m, a, s, d, t, i, n, p, g, o, c, k, u, b, f, e, l, h, r, j, v, y, w, z, x

sh, th, ch, qu, ng, nk, ck（ダイグラフをこの教材ではSpecial Friendsと呼ぶ）

Learning Set 2

ay, ee, igh, ow (as in *blow*), oo (as in *zoo*), oo (as in *look*), ar, or, air, ir, ou (as in *out*), oy

Learning Set 3

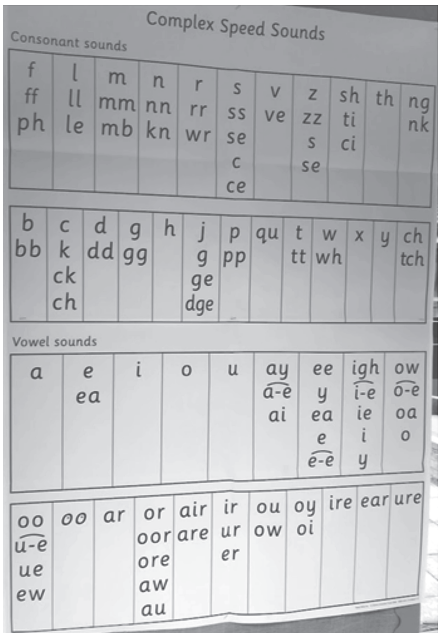
ea (as in *tea*), oi (as in *spoil*), a–e (as in *cake*), i–e (as in *smile*), o–e (as in *home*), u–e (as in *huge*), aw (as in *yawn*), are (as in *care*), ur (as in *nurse*), er (as in *letter*), ow (as in *brown*), ai (as in *snail*), oa (as in *goat*), ew (as in *chew*), ire (as in *fire*), ear (as in *hear*), ure (as in *pure*)

これらを絵とともに学んでいく。図 3 は，Learning Set 1 で学ぶ書記素であるが，それぞれ，mはmountain, aはapple, sはsnake, dはdiamond の絵とともに書かれており，絵はその文字の形をしている。写真11は，学習する書記素がすべて書かれたポスターである。以上の内容を「Letters and Sounds」と比較すると，「Letters and Sounds」における基本の書記素には含まれていない nk が Learning Set 1 に含まれている。また，ay, ir, ou, oy, ea, are, aw, ew, ire が Leaming Set 2 や Learning Set 3 に含まれている。これらの書記素に関しては,

「Letters and Sounds」では同音異綴やトリッキーワードの学習の中で学ばせるという考えなのであろう。逆に，「Letters and Sounds」における基本の書記素に含まれている ear がここでは含まれていない。

図３　Learning Set 1で学ぶ書記素

写真11　学習する書記素のポスター



以下，9 月22日（木）に参観した授業について報告する。この学校では，毎日 9：05から 9：45の40分間をフォニックスの学習に当てている。また，学年ごとではなく，学年を混ぜて習熟度別のグループごとに教室を移動し，授業が行われていた。その中の中級レベルの授業を参観した。指導していたのは支援員である。

まず，ur, ow, igh, or, aw, ea, ay, o-e, ir, air, u-e と書かれたカードを次々に見せ，素早く発音させた。その後，burn, purse, turn, spurt, nurse と書かれた緑色のカードを取り出し．Special Friends はどこにあるかと児童に尋ねた。児童は ur と答えた。Special Friends とはこの教材におけるダイグラフの呼び名である。その後，Fred Talk が始まった。Fred Talk もこの教材独自の呼び名で，ブレンディングのことである。Fred というカエルのキャラクターが登場し，音素を発音する。児童はそれを聞き，ブレンディングを行うのである。例えば，Fred が b-ur-n と発音するのを聞いて burn と発音する。

次に『A bad fright』（写真12）というデコーディング用絵本を使用した活動に移った。表紙にあるように，igh を中心に学ぶ本である。また，表紙の裏には，sh, th, ck, tch がこの本ではフォーカスされていると書かれている。まず，表紙を見せて「fright」という単語の意味を児童に尋ね確認した。次に，fright, might, light, right, high, need, teeth, just, black, thing, long とそれぞれ書かれたカードを見せ, Fred Talk の活動を行った。その後, 2 人組で，本の始めの方のページに載っている，Story Green Words を読む練習を行った。Story Green Words はストーリーを理解するのに必要な単語である。次に，同じく 2 人組で Red Words

を読む練習を行った。Red Wordsはこの本に出てくるトリッキーワードである。どの子もスムーズに読めていた。

次に，指導者の読み聞かせが始まった。時折，What do you think will happen?と児童に尋ねながら読み聞かせを進めた。その後，2 人組で本文（写真13）を読む活動に入った。2 人で協力しながら，スムーズに読み進めていた。最後に，自宅に持ち帰るデコーディング用絵本を選ばせ，自宅で読んでくるようにと指示をして終了した。

写真12　デコーディング用絵本

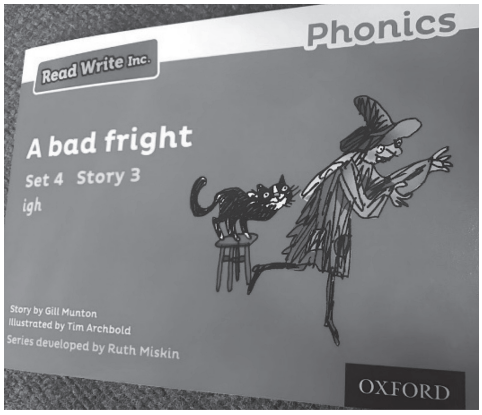
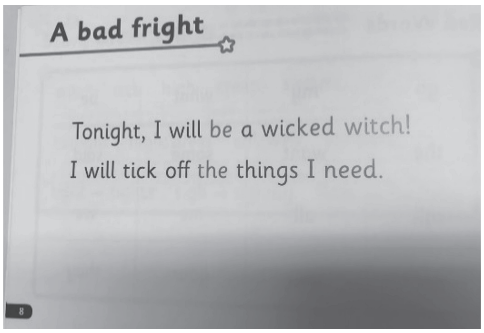


写真13　本文のページ



10　イギリス以外の国のフォニックスの教材

イギリスの教材に加えて，これまで訪問した英語圏の国々の小学校で使用されていた教材について触れておきたい。まず，2017年 9 月と2018年 9 月に訪問した，アメリカのシアトル市内の小学校で使用されていた教材は，Center for the Collaborative Classroomの「SIPPS: Systematic Instruction in Phonological Awareness, Phonics, and Sight Words」と，National Geographic, Hampton-Brownの「Reach into Phonics」であった。また，特別支援の教員は，Sopris West Educational Services, A Cambium Learning Companyの「Sound Partners」も利用していた。2019年 3 月に訪問したアメリカのワシントンDC近郊の小学校で使用されていた教材は，Fountas & Pinnellの「Leveled Literacy Intervention Blue System」である。同じく2019年 3 月に訪問したオーストラリアのケアンズ市の小学校で使用されていたのは，FireFlyの「Sound Waves Spelling」であった。2016年から2020年まで毎年 2 月に訪問したカナダのバンクーバー市近郊の小学校では，学校として採用している教材は特に決まったものはなく，教員が自分の判断で入手したカードやワークシート等を適宜使用して授業を行っていた。

11　おわりに

本稿では，イギリスの小学校 2 校の訪問を通して，シンセティック・フォニックスの教材 2 種類と，それを使用して行われる授業の様子を報告した。どちらの教材も，国が示す具体的なプログラムに基づいて作成されているので，扱う基本の音素・書記素の内容とその指導の順番はほぼ同じであったが，少し異なる部分もあった。そこに教材作成会社とし

ての考えが表れている。また，どちらの教材も，学校で採用・購入すれば，教え方のビデオの視聴や，指導案，評価用資料，ワークシートのダウンロードが可能となっている。また，カード，教室掲示用ポスター，約300冊ものデコーディング用絵本とその指導案が提供されている。1 つの教材を採用すると，授業で必要なものがすべてパッケージとして提供されており，指導者の負担軽減に寄与していると言える。さらに教員研修も提供されていた。学校は，政府による検証に合格した教材の中から，その学校の実情に合わせて教材を選択し採用している。

授業は，毎日決まった時間をフォニックスに当てていた。また，習熟度別にデコーディング用絵本を読む指導も行われていた。英語母語話者の子どもは，44音の音素と同音異綴，トリッキーワード等を一つ一つ丁寧に，ブレンディングとセグメンティングを繰り返しながら時間をかけて学んでいる。一方，前述したように，日本では単語の綴り全体を暗記する指導が多いという指摘があり（村上，2015；瀧沢, 2020），それが読み書きの困難を引き起こしている現状がある（Takeda, 2005）。もちろん，英語母語話者であるイギリスの子どもたちに行われている指導や教材がそのまま日本の子どもたちに合うわけではないが，日本におけるよりよいフォニックス指導について考えるためには，シンセティック・フォニックスについて深く理解する必要があり，本稿の報告がその一助になれば幸いである。

謝辞

本研究はJSPS 科研費 19K00767 の助成を受けたものである。ここに感謝の意を表する。

引用文献

安達理恵（2022）.「外国語指導法授業での文字・音韻指導とジョリーフォニックス紹介による指導意識への効果」『言語と文化：愛知大学語学教育研究室紀要』第46号，43-60.

入山満恵子（2023）.「統合的フォニックスの指導効果検証　－ジョリーフォニックスの一斉指導による課題成績推移について－」『現代社会文化研究』第76号，137-148.

入山満恵子・加藤茂夫・渡辺さくら・山下桂世子（2019）.「日本語を母語とする中学生への効果的な英語学習法の検討　―統合的フォニックスの活用―」『LD 研究』第28巻第２号，262-272.

加藤茂夫・入山満恵子・山下桂世子・渡邊さくら（2020）.「ジョリーフォニックス指導効果検証の試み　―新潟県南魚沼市の取り組みから―」『小学校英語教育学会誌』第20巻, 272-287.

上原明子（2022a）.「中学校外国語科におけるフォニックス指導についての考察　－文部科学省検定済教科書の分析－」『都留文科大学研究紀要』第95集，93-110.

上原明子（2022b）.「小学校外国語科における音と文字の関係に関する指導についての考察　－文部科学省検定済教科書の分析－」『日本児童英語教育学会研究紀要』第41号, 39-57.

木澤利英子（2018）.「シンセティック・フォニックス指導とその効果」『関東甲信越英語

教育学会誌』第32巻, 71-84.
佐々川昌子・納富恵子（2021）.「中学生の学ぶ意欲を喚起する英語学習法の一方途　ー多感覚を用いたシンセティック・フォニックスの活用を通して」『福岡教育大学紀要』第70号，第 4 分冊，223-229.
ジョリーラーニング社（山下桂世子監訳）（2017）.『はじめてのジョリーフォニックス　ーティーチャーズブックー』東京書籍.
高橋遼（2021）.「進んで文字を読もうとする意識を育む『読むこと』の研究　ージョリーフォニックスを用いた指導を通してー」『教育実践研究』第31集，145-150.
瀧沢広人（2020）.『英語音韻認識ワーク44』明治図書.
ハイルマン, A. W.・松香洋子（監訳）（1981）.『フォニックス指導の実際』玉川大学出版部.
百武美穂・納富恵子（2022）.「多感覚を用いたシンセティック・フォニックスの指導とその効果」『福岡教育大学紀要』第71号，第 4 分冊，265-274.
村上加代子（2015）.「英語の学習初期における読み書き指導の在り方の検討　ー基礎的な力としてのデコーディングと音韻意識スキル獲得の必要性についてー」『神戸山手短期大学紀要』第58号，57-73.
文部科学省（2008）.『中学校学習指導要領解説外国語編』開隆堂出版.
文部科学省（2018a）.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編』開隆堂出版.
文部科学省（2018b）.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編』開隆堂出版.
山下桂世子（2015）.「多感覚を用いたシンセティック・フォニックスと特別支援教育」https://kayokoyamashita.com/uploads/9152a68ecc74bc5474f90f67b6fd70d6.pdf
山本幸一（2019）.「小学校『外国語活動』・『外国語』と文字指導　ー教職課程での取り組みー」『Language & literature (Japan)』第28号，1-25.
湯澤美紀・山下桂世子（2015）.「英国におけるSynthetic Phonicsの取組　ー英語学習導入期における教育実践の現状ー」『ノートルダム清心女子大学紀要』第39号，94-106.
Crystal, D. (1990). *The English Language*. Penguin Books.
Department for Education. (n.d.) *Choosing a phonics teaching programme*. (Updated 10 March 2023). https://www.gov.uk/government/publications/choosing-a-phonics-teaching-programme/list-of-phonics-teaching-programmes#validated-ssp-programmes
Department for Education and Skills. (2007). *Letters and Sounds: Principles and Practice of High Quality Phonics*.https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/190599/Letters_a.nd_Sounds_-_DFES-00281-2007.pdf
Hatcher, P. J., Hulme, C., & Ellis, A. W. (1994). Ameliorating early reading failure by integrating the teaching of reading and phonological skills: The phonological linkage hypothesis. *Child Development, 65*, 41-57.
Jolly Learning. (n.d.) *Jolly phonics*. https://www.jollylearning.co.uk/
Katusic, S. K., Colligan, R. C., Barbaresi, W. J., Schaid, D. J. & Jacobsen, S. J. (2001). Incidence of reading disability in a population-based birth cohort, 1976-1982, Rochester, Minn. *Mayo Clinic Proceedings, 76*, 1081-1092.
Little Wandle Letters and Sounds Revised. (n.d.) *Teach reading: change lives!* https://www.

littlewandlelettersandsounds.org.uk/

National Reading Panel. (2000). *Teaching children to read: An evidence-based assessment of the scientific research literature on reading and its implications for reading instruction*. Washington D. C.: National Institute of Child Health and Human Development.

Read Write Inc. (n.d.) *Phonics: a guide for parents*. https://home.oxfordowl.co.uk/reading/reading-schemes-oxford-levels/read-write-inc-phonics-guide/

Ruth Miskin Training. (n.d.) *Read Write Inc, Phonics*. https://www.ruthmiskin.com/programmes/phonics/about-read-write-inc-phonics/

Takeda, C. (2005). The application of phonics teaching in junior high school English classes in Japan. *JACET -CSCRB, 2*, 127-137.

Received：September, 30, 2023
Accepted：November, 1, 2023